

平成27年度

平成27年6月25日作成

宇気郷住民協議会

「地域計画書」

安心して暮らせる地域

住んでいて良かった地域

誇りが持てる町・・・・・・をめざして！！

宇気郷住民協議会 「地域計画書」

27年 6月25日

1：取組の経過

地域計画は、「平成21年度の地域の皆さまのどういう地域をつくりませんか」のアンケート調査に始まり、ワークショップなどによるまとめの過程で出てきた、「安心して暮らせる地域」「住んでいて良かった地域」「誇りが持てる地域」そんな町づくりを実現する行動をみんなで考え、地域を分析をし、アイデアを出し合い、自律性を発揮し、自分たちで地域起こしをしてきた結果策定した「福祉活動計画書」の取組の経過でおのずから浮き上がってきている経緯があります。

地域の現状分析は、続いて平成23年度の、社会福祉協議会、および第五地域包括支援センターとの共同全戸訪問による「福祉訪問調査」に引き継がれ、さらに平成26年度の「住民協議会の全戸訪問聞き取り調査」につながりました。

これらの調査分析にもとづいて、68%の高齢化率の地域としての計画書が生まれたものであります。基本は、すべての施策の基本に「福祉の視点」を！！であります。

2：地域の分析（住んで居る人は）

27年4月1日現在次表のようになっています。

宇気郷地区居住者状況（27年4月1日）

| 地区名 | 世帯数 | 人口 | 1人世帯 | 65歳以上 | 高齢化率% |
|------|-----|-----|------|-------|-------|
| 袖原町 | 45 | 79 | 20 | 61 | 77 |
| 後山町 | 16 | 26 | 8 | 23 | 88 |
| 飯福田町 | 8 | 13 | 3 | 4 | 31 |
| 与原町 | 28 | 59 | 9 | 33 | 56 |
| 合計 | 97 | 177 | 40 | 121 | 68 |

人口は、昭和35年頃までは、300世帯、人口1,200人以上ありました。その後高度経済状況のひずみは、木材価格の急激な下落と若人の流失と進み、平成に入る頃には、150世帯人口500人を切るようになりました。その後もますます人口減少に歯止めがからず高齢化傾向も伸び続けて現在に至っております。

3：そんな地域の住民は、(現状分析)

- ① 高齢化地域の第一の課題は、約8割の住民が病院の受診をしている現状です。(78.4%)
- ② 要介護認定は、受けていない人は、約83%。
(病院には行くが、約80%の人は健康であると答えています。)
- ③ 移動手段は、40%強が自家用車(42.2%)
(一人暮らしの女性でも車は、乗れる人多い。)
- ④ 外出の目的は、1位・買物、2位・病院行 3位・近くの田・畑
- ⑤ 地域行事への参加は、70%、近所付き合いは70%強、あります。

4：そんな住民の(課題)

- ① 外出のしづらさが、徐々に増えてきていること。
年々外出の機会が減り、若干自家用車の利用が困難になってきている。
(26年度の訪問聞き取り調査より)
- ② 災害時の対応が難しくなっている。いざと言う時の連絡等対応に不安がある。(耳の遠い人が増えてきている。)
- ③ 獣害の被害が圧倒的に大きい。
(昨年度までの3年間にわたるメッシュの設置によりほぼ克服できた状況であるが、まだまだ取組の継続が必要である。また、各自治会単位の猟友会との連携が成果を出している。)
- ④ 総じて、昨年度の聞き取り調査で出た結論は、住み慣れたこの地で、安心して、安全に暮らしていくには、「買物バス・病院への通院バス」の支援が必要である。と言うことが最大の課題であります。
- ⑤ 加えて言えば、住む人の減少が続き、その上若い人の移住・定着がなかなか進まないことでもあります。
(27年度になって、大学出の若い青年が移住し、期待できる。)

5 : 解決策＝目標

① 中期目標（概ね5年以内に実施する。）

A: 自然・農地を活かした産業振興

獣害を完全にシャットアウトした農地の特性を生かした、住民及び通い従事者による、有機農法による農業の振興を図る。

以前から袖原町を中心に有機農法によるお米作りを実施されている人が今年から農地を拡張され、しかも若人の移住による本格的な農業の振興の取組を開始し始めました。

また、田植えや収穫の時には、沢山の若人を体験集合させて実施しているのでますます期待できる見込みであります。

B: 無農薬茶の生産拡大を図る。

地域活性化の一端として、お茶畑の放棄地が増えてきたので、26年度から取組を進めてきました「お茶畑のオーナー制度」の拡大定着を図ります。毎年1－2反程度の拡大を図っていきます。

これは、特に地元自治会を中心に「当地出身者の多くが定年退職の時期」に入り、その地縁性をいかした話しかけ・働きかけで取組を始められた人も現れました。

C: 田舎名物の特産品の販売促進・開発を図る。

以前から好評な「うきさとむら」開発の「よもぎ餅・薬草天ぷら・かしわ焼き肉・モロヘイヤうどん」等の販売促進を支援し、更に地域全体で「新商品の開発」に努力します。

D: 「堀坂山の家」の利活用を図る。

青少年の鍛錬の場、交流の場としての活用を図る。整備、補完状況を市に要望していくが、将来的には、宿泊を伴う田舎体験の場とした活用も実施していく。

E: 一方「自然の良さ・特性を活かした「飯福田寺音楽祭」や「もくれん撮影会」（花の町後山町の街道）なども定着させます。

F：「昆虫の里」作りは、平成24年度の元気応援事業の一環として取組を進め、多くの子供たちの受入れを継続しています。同時に市内の幼稚園2校にそのノウハウ、飼育館を伝授してきました。飼育床については毎年提供を続けております。この取組もますます充実していきます。

E：定住者を一人でも増やそうとした時の問題は、「住める家」の確保、そこには、場所によっては「飲み水」の確保が重要です。各自治会等との連携による日頃からの空き家の確保、状況の把握に努めます。

G：地域計画・福祉プランの達成を図るために、住民協議会の各専門委員会が一体となって取組を進めます。

② 長期計画書（5年から10年）

（短期計画と相まって（早く実行できればそれにこしたことはない。）

A：村づくりの基幹産業を育てる。

（1）昭和30年頃まであった「鍛冶屋＝小鉄工所の復活を図る」

これは、農作業の道具、家庭道具、子供の遊び用具など何でも出来る「鍛冶屋」の復活を図る。

定年退職者で溶接技術を活かして「ごみ集積所」を作った技術は、目を見張る物作りの技術があった。（完成27年5月）こんな技術を活かした作業所団地を作る。

（2）同時に、豊富な竹を利用した「竹かご屋」「木材製品製作所」を作る。

お茶摘みかご・椅子・机から竹トンボ・プランタン・何でも出来る製作所・シロアリの予防「竹炭等」の生産も図る。

B：これらの施策の基礎が、住居家屋・作業所の確保であります。

地元自治会の強い地域力を活かして、空き家の発生は、まず自治会の日常活動を通じて、早期に把握していく。そして、良い家に良い移住者を確保する。これが非常に重要な取組であります。そして月1回は、開催する「住民協議会特別委員会兼連合自治会長会議」で情報交換対策の検討・4町一丸となった取組を進めます。

そんな検討・取組の成果は、水・住居・自然（田・畑・山林）などの許容範囲の住人の定着を図っていくものと確信しています。

そんな、地域の「歴史・自然・寺院・神社・憧れの故郷への思い」が相まって、永遠に宇気郷地域の住む人・働く人・など生活する人の環境は、整い維持されていきます。

そこに、宇気郷住民協議会の永遠の存在があります。住民協議会の強い絆は、宇気郷地区の永遠の光であります。

6: 解決策 = 「行政への要望事項」

(地域と共同で実施するものを含む)

① 交通手段の確保（地域と共同で実施）

- * 現在の三交バスの運行の確保及びコミュニティバスの運行の継続確保。
(地域では、利用促進と、コミュニティバスの運転手の確保に取り組む)
- * 次に取り組む「福祉目的バス運行」の実施に向けた指導・認可。
高齢者や障害者等弱者の買物・病院行バスが目的のバス運行。
(地元では、バスそのものについてはすでに支援を頂き、確保した。
また、運行の諸費用は地元住民協議会で確保する予定。
生き生きした高齢社会を実現していく過程を見事に開花させていきたい施策であります。

- ② 空き家（江戸時代から手つかず）の家・歴史的に保存し、交流拠点として活用できるものへの取組の支援。 =文化庁への保存・整備の申請
（地域及び松阪建築士会さまとの協調のもの。）
（地元では、その家の土地の借用を得て、周辺茶畑の利用（お茶のオーナー制度）を実施している。又雨漏り等の対策も実施した。）
- ③ 伊勢山上への観光道路と位地づけている市道（後山町から飯福田町）の道整備に対する支援。 特にこの地（後山町）は、高齢化率88%で4町のうち最も高い高齢者のところである。（地元との協調事業）
（現在は、地元自治会有志等による清掃作業が、実施されている。また、宇気郷地区すべての道には、26年度の元気応援事業の実施で、手作り看板・観光マップ看板を設置した。）
- ④ 地域みんなが一堂に集まる「宇気郷地区市民センター講堂」の改築・整備。（地域と共に実施していく）
災害を見越しての改築・敬老会など地区民全体が集まる行事など施策の運行に支障のない施設の維持を図る。
行政は、例えば、「取り壊しにかかる予想金額の」補助を行い、地域は、地元間伐材などを活用し、建築士会等の協力を得て、また地元民の協力のもとに工事を執り行う。
この取組が成功すれば、「堀坂山の家」についても同様な整備を実行できるのではないかと思います。
壊せばよいと言う理論は、あまりにも地域に対する配慮のない行為で、地域を益々住めない地にしていく考えではないでしょうか。
- ⑤ 4町一体的な交流・発展を推進するために欠かせない飯福田町から与原町間の貝坂峠の改修を特に望むものであります。

以上